

# 監視用デジタルレコーダと セルフセキュリティ応用

熊野 眞\*

Digital Recorder for Surveillance and Self-Security Application

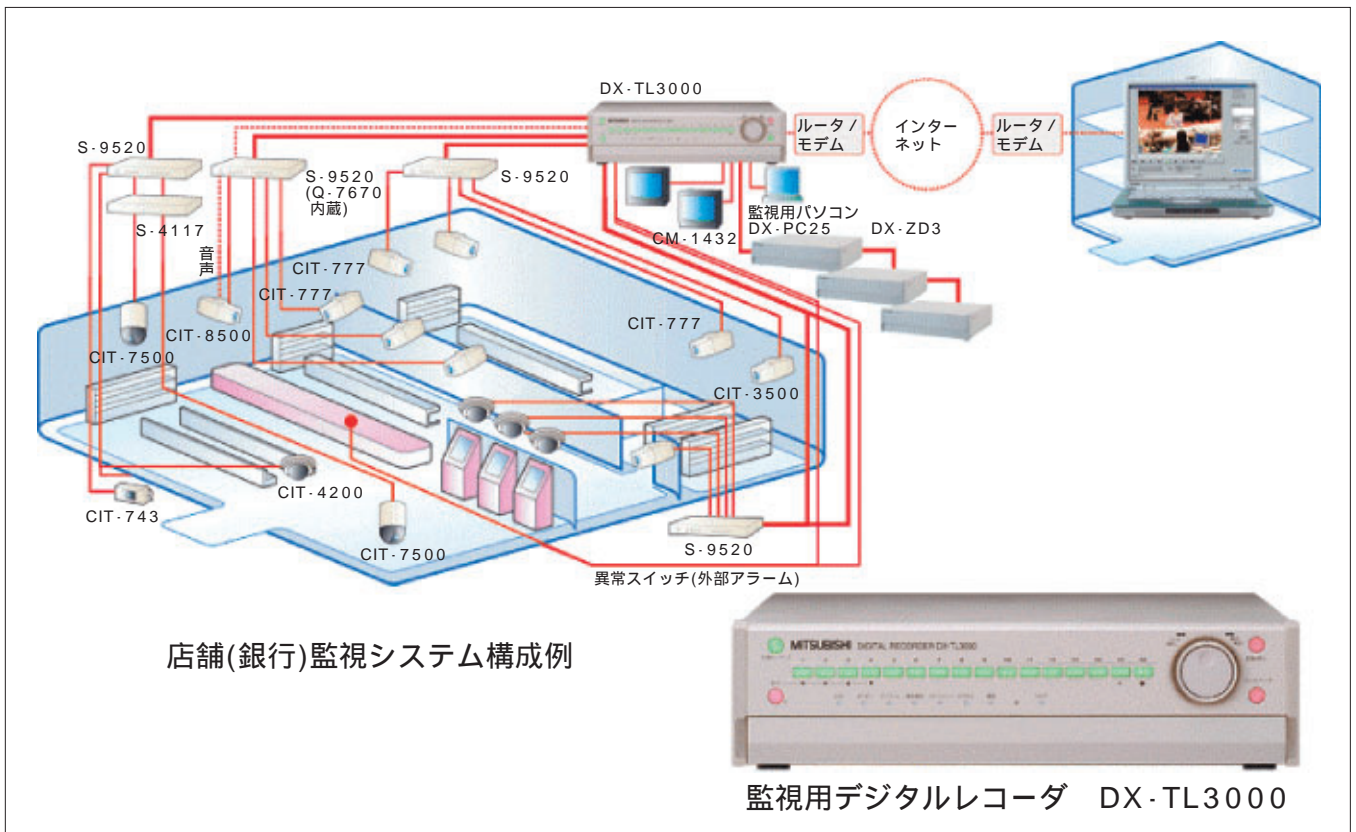
Makoto Kumano

## 要 旨

昨今、安全と言われてきた我が国においても、犯罪の増加と多様化については様々なメディアにおいて報じられている状況である。営業時間の延長などに伴う店舗防犯に対する意識が急速に高まってきており、日常的に利用する店舗において防犯用監視システムが稼働していることを目にするのはさほど珍しい光景ではなくなっている。こうした社会背景から、一般家庭においても防犯に対する意識は徐々に浸透しつつある状況である。三菱電機では、主としてコンビニエンスストアを始めとする小規模店舗での使用を想定した監視用デジタルレコーダ「DX・TL10」を2001年の年末にリリースを行い、以降、様々な用途や監視システムのニーズに対応した製品開発を行ってきた。例えば、銀行やビルを対象とした中・大規模店舗監視システム対応機や、駐車場やエレベーターといった特定使用に特化

した製品の充実と、増設用ディスク装置やシステム専用カメラ、そしてパソコンと組み合わせて使用を行うためのアプリケーションソフトウェア製品等の周辺機器の充実を図ってきた。

今回、金融を始めとする大規模・高機能を要求する中・大店舗向けシステムの要求にこたえるために、マルチプレクサ性能を始めとした基本性能の向上と、ネットワーク機能を始めとした高操作性を実現するために新規開発した技術内容について、上位機となる「DX・TL3000」を例に述べるとともに、より広範囲の用途に対応した展開製品の開発状況と、我々の普段の生活により一層身近になりつつある「セルフセキュリティ」についての取り組み状況について述べる。



## 監視用デジタルレコーダDX・TL3000と店舗監視システム構成例

DX・TL3000は、最大16チャンネルのカメラ映像を内蔵のハードディスクドライブ(HDD)に長期間連続記録を行うことが可能な監視用デジタルレコーダである。記録速度や映像保存期間に応じて外付けのディスク装置「DX・ZD3」を適宜増設することで店舗規模に応じた監視システムの構築が可能となる。また、2系統のモニタ出力やネットワークを介した遠隔監視機能とカメラPTZ(パン/チルト/ズーム)制御機能を内蔵したことにより、より多用途・多目的監視システムを構築する際の中核装置としての使用が可能である。

\*京都製作所